

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /  
植物の花と実 / 理解シート

## ヒマワリの花のつくりを教えて



ヒマワリは、小さな花が集まって一つの花のようになっている、タンポポなどと同じつくりの花だよ。

大きなヒマワリの花は、小さな花が1500個も集まったもの

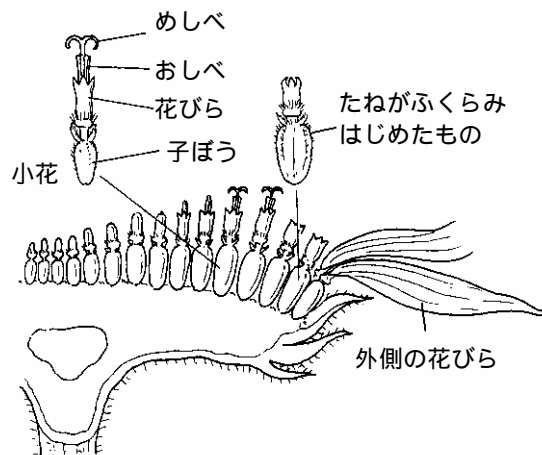
ヒマワリの花は、外側に大きな花びらがあり、内側には丸いつぶつぶが見えます。よく見ると、花の中心に近いつぶと、外側ではつぶのようすがちがいます。

このつぶが、実は小さな花（管状花）なのです。下図のように、つつのような部分が花びらで、成長するにつれて茶色のおしべがつつから現れ、やがて、おしべの上に、黄色の先がまるまっためしべが現れます。つつの下には子ぼうもあり、たねもできます。小さい花は外側にあるものから順に成長してさいてくるため、花全体をながめると外側はめしべの黄色、少し内側はおしべの茶色が目立ちます。

### ヒマワリのたねは、花の外側からできてくる

花にやってきた虫が花粉を小さな花のめしべにつけるため、花の成長につれて、花の外側に近いところから、たねができてきます。夏の終わりごろのヒマワリの花は、できたたねの重さで首をたれ、花の外側からたねが黒くじゅくしていきます。

大きな花なら1500個ものたねがとれます。つまり、1500個の小さな花が集まって、一つのヒマワリの花になっていたのです。



たてに切ったヒマワリの花